



国際社会で生きる力を育てる

～イギリス研修旅行の成果～

広島工業大学附属広島高等学校
教諭 森山 幸

1. イギリス語学研修

高校2年生の研修旅行コースの1つであるイギリス語学研修には、毎年多くの生徒が参加し貴重な体験をするとともに、多くのことを学んでいます。

現在本校の生徒が毎年参加している“Manor Courses Ltd.”主催のサマープログラムはロンドンから車で3時間余りのイギリス南西部サマセット州にある小さな地方都市のトートンスクールという私立学校の施設を借り切って行われています。



トートンスクール本館(正面)

2. 英語プログラム

このサマープログラムにはジュニアコース(5歳から12歳まで)とシニアコース(13歳から18歳まで)があり、300名程度の生徒が、2週間から最長で6週間、寮で寝起きを共にしながら英語を学びます。生徒の国籍も多彩で、スペイン、フランス、イタリア、ドイツ、トルコなどのヨーロッパ諸国をはじめ、中東の国々、ロシア、ウズベキスタン、香港などからも毎年多くの生徒が来ています。リピーターも多く、毎年参加している生徒も多数います。

午前中は英語の授業、午後はインストラクターの指導により、バドミ

ントン、サッカー、バレーボール、水泳などのスポーツやクラフトなどのアクティビティが行われます。夕食後もスポーツーナメントやディスコなどがあり、生徒たちは毎日、夜10時の各寮での点呼の時間まで何らかのアクティビティに参加し、退屈するということは全くありません。

英語のクラスはクラス分けテスト(文法テストとインタビューテスト)により、20から25のレベルに分けられます。1クラスの人数は10人から14人程度で、最低4つから5つの違う国籍の生徒が共に学習します。前半の授業では文法や読解、後半の授業では自分の国や世界の国々、社会についてなど様々な問題についてディスカッションが行われます。広島高校の生徒の英語力は年々優秀になっており、毎年英語のクラス分けではほとんどの生徒が中位より上のクラスで英語を学んでいます。



授業風景

トップレベルのクラスは2つあり、それぞれのクラスに本校の生徒は2人から3人おり、政治、環境問題等のかなり高度な内容のディスカッションにも挑戦していました。

3. 事前学習

海外研修の場合、ほとんどの生徒にとって海外は初めてであり全く違う環境で数週間生活することになるので、事前学習が非常に重要です。特にイギリスの語学研修の場合には様々な国から同じ年代の生徒たちが集まるので、良くも悪くも各国の生徒の「素顔」というものが見えてきます。

外国人生徒は日本人に比べてはるかに積極的であり、ある意味、日本人から見ると「わがままで身勝手である」ように思われるところもあります。しかし、このような本当の姿を知ることができるのは、生徒たちにとっては、これから国際社会で生きていくためにもめったにない貴重な機会です。

日本人として、また本校の生徒として、「誇りを持って行動すること、自分から積極的に何でも取り組んでいくこと、できるだけ多くの友人を作ること」を中心として事前学習を進めていきました。

また、トートンでは生徒による「タレントショー」も行われます。これまでも、本校の生徒の出し物は毎年素晴らしく評判がよく、今回も大いに期待されました。タレントショーの練習では、リーダーの生徒が連絡、練習の予定など全て率先して行い、また、振り付けもバレーを長年習っている女子生徒が中心となりアレンジをしてくれました。おかげで本番で披露した際には、誰からもプロが振り付けしたのかと聞かれるほど素晴らしい出来ばえで、全員から大喝采を浴びることができました。



タレントショー(ソーラン節)

4. 本校生徒の果たした役割

海外では日本人は日本人だけで行動しがちであるというのは確かに事実です。しかし、本校の生徒たちは全く違う印象をスタッフや他国の生徒に与えることができたと確信しています。

アクティビティでは、本校の生徒

は必ずどのスポーツにも参加していました。すると、最初は余り熱心に参加していなかった他の国の生徒も、本校の生徒につられて次第に参加するようになってきました。また、スポーツーナメントの際にも他の国の生徒と混合チームを結成し、常に他の国の生徒と関わろうとする態度が見られました。競技では楽しみながらも常にフェアプレーに徹し、さらにはアクティビティが終わるといつも進んで後片付けをしていました。このような点がスポーツ担当の先生にも非常に良い印象を与え、先生方から「広島の生徒は最高だよ」という言葉を何回もいただきました。アクティビティの場以外でも、スタッフや先生、他の生徒たちにも自分から挨拶をし、あるいは積極的に英語で話しかけたりと、どの先生からもお世辞ではなく「日本人の生徒は素晴らしい」という言葉を耳にして、引率教員としても誇らしい限りでした。

プログラムの終了時には、生徒全員に対して修了書と、トーナメント優勝者に対してメダルが授与される終了式が行われます。しかし、今回は特別に本校の生徒だけのために終了式が行われました。

終了式では、急遽女子生徒がピアノを披露することになり、それを他の生徒が英語で紹介し、またある女子生徒はフランス人の生徒と創作ダ

ンスを全員の前で堂々と披露するなど大活躍でした。終了式の最後に、生徒の代表があらかじめ準備していた生徒一人一人の感謝の言葉を書いたメッセージボードを校長先生に手渡した時には、このようなことは今まで一度もなかったと感動され、生徒たちの心遣いに校長先生が思わず涙を流されていました。



終了式(本校生徒からの感謝状授与)

本校の生徒は例年まじめで、態度も良く評判は非常に良いのですが、スタッフから「広島の生徒がいなくなると、先頭にたって引っ張ってくれる生徒がいなくなり寂しくなる」と言われたのは初めてのことでした。それほど今年の生徒の行動力、そして積極性は素晴らしいものでした。生徒たちがこの研修旅行の間に学んだのは、英語だけではなくこれからの国際社会で生きていく力を身に付けることでした。このように海外においても他国の生徒の中でリーダーシップが発揮できる生徒が育ってきたのは、本校が今まで行ってきた様々な教育の成果であると信じています。